

「遠くから声を掛けられた感じで返って」。アートディレクター高野宙さん(33)は1月下旬、長岡の工場で企業PR動画の撮影にだけだ。出演する女優に演技指導し、タルカメラを構えると鋭い眼光を注いだ。

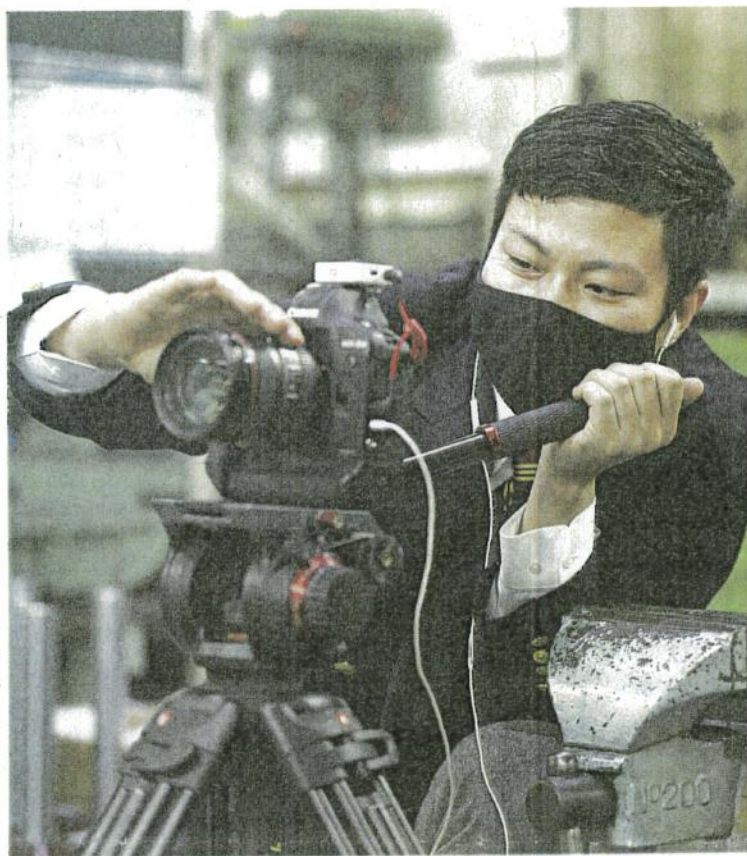
全国で映画監督の技術を学び20年7月、長岡に帰郷した。昨年設立した会社で映像やウェブサイトの制作を手掛け、講師などの仕事を引き受ける。

長岡大手高校時代に見た海外企業レベニューCMにひかれ、大阪芸術大を専攻した。仲間と作った動画が評価され、大手ボクシング団体のプロモーション映像を任せられた。「海外勢と戦う選手に刺激を受け、世界を意識した」。当時見た映画の美しさにも触発され、映画の都府県を目標とした。

10年5月に渡米。語学学校に通いながら現地のプロデューサーに自分

アートディレクター 高野宙さん(33)

街の可能性映像で導く



を売り込み、新人歌手の密着撮影で全米を回った。冬のロサンゼルスで寒さと銃声に震えながら、車中生活を体験したこともある。

初心に戻り15年9月、ハリウッドにある映画学校「ニューヨーク・フィルム・アカデミー」の修士課程に入った。監督コースで約2年間、脚本や機材、美術や照明などを幅広く学んだ。「色の配置一つとっても心理学的な裏付けがあり、カメラ

ラを知らなければ適切な指示はできない」と本場のノウハウを詰め込んだ。

物語つむぎ人をつなぐ

えた。

ウイルス禍の影響を受け運営していた日本人観光ストハウスの仕事は、見なくなった。一方で、伸びや相次ぐ展示会の中、日米の企業からPR映像制作の受注が増えた。個人や企業の「コミュニケーション、観光誘致などの手段像の力はますます重みが増える。米国を含め市外の出ることで、長岡の可能性をいきたい」と考える。

いずれは長編映画に挑み、映画祭でグランプリを争う。「映画の本質は物語だ。物語をつむぎ、人と人がつながる役割だ。フリーランサーが集まると、専門技術を持った人、育てることも時間がかかると多過ぎる。みだ。

「た」 質疑時間限られ不満

東電は新基準適合を強調

避難準備区域(UPZ)に問題や、7号機の工事未完了が判明したことを受けて、改定された新規基準では、福島事故をきっかけに、原発で事故が起す中、約110人が参加した。新潟本社の橋田昌哉代表は、津波対策や重大事故対策が強化されたと説明。この開発の取り組み